



2015 47th MFJ GRAND PRIX
SUPERBIKE RACE in SUZUKA

2015年 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第9戦 第47回 MFJグランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

新予選方式、TOP10サバイバル実施のご案内

今シーズン第3戦「スーパーバイクレース in もてぎ」で採用された新予選方式「TOP10サバイバル」を鈴鹿サーキット独自にアレンジし、10月31日(土)、11月1日(日)に開催する最終戦「MFJグランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿」で実施することが決定いたしましたので、ご案内いたします。

鈴鹿サーキット初の「TOP10サバイバル」は、每周2台が脱落する6週のタイムアタック 最後に残った2台はポールポジションをかけ2週のタイムアタックを展開



ツインリンクもてぎのTOP10サバイバルで
ポールポジションを獲得した中須賀克行選手

鈴鹿サーキットで初めて実施するJSB1000のTOP10サバイバルは、ツインリンクもてぎでのTOP10サバイバルとは内容が異なります。

予選Q2で6周実施され、1周につき遅いライダー2名が脱落します。そして最後に残った2名のライダーは、2周にわたりタイムアタックを行い、2周のうちのベストタイムでポールポジションと予選2番手が決定します。

計時1周目に2名が脱落してコース上に8名が残り、計時2周目にも2名が脱落してコース上に6名が残り、計時3周目、4周目にも2名ずつが脱落し、5～6周目は2名のライダーによってマッチレースさながらのタイムアタックバトルが行われます。なお、Q1で11番手以下のライダーは、そのタイム順でスターティンググリッドが決定します。

このTOP10サバイバルは、6周に渡るタイムアタックにより、速く、そしてミスのないライダーがポールポジションを獲得するというもので、これまでにない緊迫した予選になることが期待されます。

予選Q1ではレース2のグリッドが決定 土曜日の予選から、決勝に向けたバトルに注目



2014年MFJグランプリ
レース1スタートシーン(イメージ)

国内最高峰クラスのJSB1000は、例年と同様に2レース制で行われます。また、MFJグランプリならではのボーナス3ポイントが順位に応じた通常ポイントに加算されることから、レース1で優勝すれば25ポイント+3ポイントの28ポイントを獲得できます。さらにレース2をも制してダブル優勝すれば28ポイント×2レース、すなわち56ポイントを獲得できることから、チャンピオンシップで大逆転の可能性を秘めている大会です。

今年の鈴鹿8耐のTOP10トリアルでは、YAMAHA FACTORY RACING TEAMのポール・エスパルガロ選手が2分06秒000を叩き出して場内を騒然とさせましたが、チームメイトの中須賀克行選手も2分06秒059を記録。さらにTeamGREENの渡辺一樹選手、YOSHIMURA SUZUKI Shell ADVANCEの津田拓也選手も2分06秒台を記録しています。

気温とともに路面温度が下がる秋のMFJグランプリでは好タイムが期待でき、両レースを制するために、レース2のグリッドが決まる予選Q1で、2分05秒台のタイムに期待が高まります。

鈴鹿サーキット 新予選方式TOP10サバイバル もてぎ戦との違い

MFJグランプリは2レース制であり、またもてぎ戦からアレンジした鈴鹿サーキット独自のTOP10サバイバル予選方式採用により、ライダーにとっては息の抜けない状況下での予選が繰り広げられます。

第3戦ツインリンクもてぎの予選方式

Q1(A・B各グループ30分間) 全車が走行 ➡ 11位以下のグリッドが決定

↓ 上位10台がQ2に進出

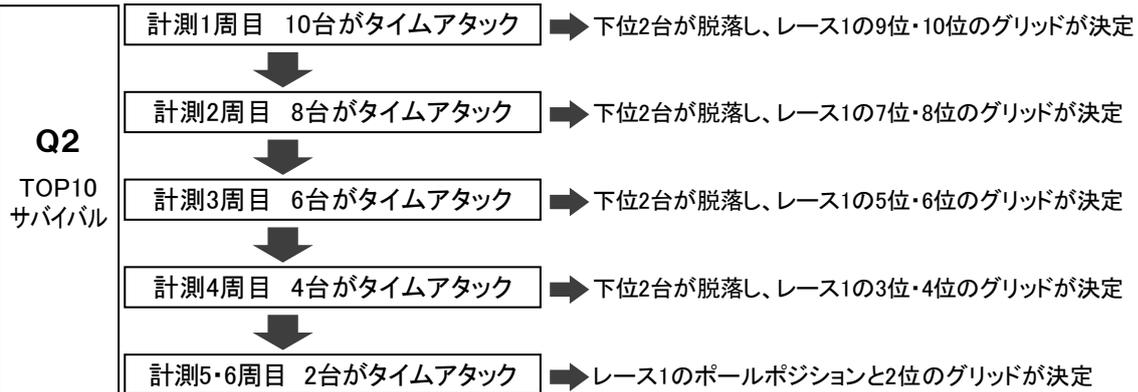
Q2(9周) TOP10サバイバル ➡ 計測ラップ1周ごとに最下位の1台ずつグリッドが決定

第9戦鈴鹿サーキット MFJグランプリの予選方式

Q1(40分間) 全車が走行

レース1の11位以下のグリッド、
およびレース2の全グリッドが決定

↓ 上位10台がQ2に進出



前売チケット 9月6日(日)発売開始

詳細は鈴鹿サーキット公式ホームページ(<http://www.suzukacircuit.jp/>)をご覧ください